

【論 文】

COIL Trial : オンラインによる語学研修&フィールドスタディ†

—北京外国語大学：中国語研修と日本語学科との学生交流—

福岡昌子*

三重大学国際交流センター*

コロナ禍により国際移動を伴う国際教育交流は大きな影響を受け、学生交流は停止状態となった。その中で海外協定校の北京外国語大学の協力を得て、COIL 授業の試みとしてオンラインで『北京外国語大学：語学研修&フィールドスタディ』を実施した。三重大学からは11名、北京外国語大学からは9名の参加があった。北京外国語大学のテキストを使った中文系教員からの中国語指導、日文系の学生との協働学習および交流活動、日中経済協会北京事務所所長による「現代中国を知る」講演会を実施し、アンケートの結果好評を得た。特に「中国への偏見を持っていたが本事業に参加することで偏見が払拭された」、「両国間の摩擦で交流が順調に進むか不安だったが楽しく交流できた」、「長期留学しなくなった」という声が多く聞かれた。これまでは現地へ赴き経費を使った短期留学が主流であったが、事業内容によってはオンラインでも十分成果が達成できることがわかった。

キーワード：コロナ禍、語学研修、フィールドスタディ、学生交流、オンライン、COIL

1. はじめに

2020年度以降、世界では新型コロナウイルス感染症が大流行し、国際教育交流のあり方が様変わりしたと同時に、海外の大学とオンラインによる国際教育が大きく展開された。まず教育の現場では、対面授業ができなくなり、ZoomやTeamsなどオンラインを通じた授業形態が行われることになった。留学についても、受入れや派遣が中止となり、フィールドスタディや海外語学プログラム等もすべてオンラインで実施されるようになった。現地に行かずして、学んだり交流したりすることが可能になったことは、かつてない教育現場における激変であり、新たな教育成果であった。

コロナ禍により語学留学や協定校との交流活動が減少する中で、本学で唯一中国の首都北京にある協定校の北京外国語大学の協力を得て、オンラインによるCOIL型『北京外国語大学：語学研修&フィールドスタディ』を実施した。本稿では、三重大学国際交流推進経費を用いて実施した本事業の活動報告を行うと共に、ポストコロナに際し、国際教育交流を目的とした高等教育における短期留学のあり方について検討する。

2. 事業の背景

2.1. 留学生30万人計画の達成後の新たな目標

2008年の文科省による2020年までに留学生30万人受け入れようとする『留学生30万人計画』の施策は、2019年5月に達成された¹⁾。その後、文科省は

2014年に「スーパーグローバル大学創成支援事業(SGU)」(2014~2023)を立ち上げ、新たな国際教育交流を推し進めてきた²⁾。世界トップレベルの大学との交流・連携を実現・加速させるために、人事・教務システムの改革や学生のグローバル対応力育成のための体制強化などを目指し、国際化を徹底して進める大学に対して、重点支援を図るものであった。

この間のグローバル人材育成の推進にあたり、総務省行政評価局(2017)が「グローバル人材育成の推進に関する政策について評価および勧告」を行い³⁾、高等教育における留学のあり方に一石を投じた。文科省は「第2期教育振興基本計画(2013~2017)」⁴⁾において、少子高齢化・人口減少による国内市場の縮小や国際競争の激化の中で、グローバル人材の育成として外国語教育の強化、留学生交流の推進、大学等の国際化の強化を図った。しかし、その施策の達成状況は概ね進展があったが、留学促進には課題があり、実際に外国に行くことが目的化した短期留学に関しては再検討が迫られた。日本人学生の約8割が6か月未満の短期留学(多くは1か月未満)で、短期留学がグローバル人材(i. 豊かな語学力・コミュニケーション能力, ii. 主体性・積極性, iii. 異文化理解の精神等を身に付けて様々な分野で活躍できる人材)の育成に対し、いかなる効果を持つのか十分な検証が必要であると評価したためである。このような経緯から、「スーパーグローバル大学創成支援事業」には大きな期待が寄せられた。

2.2. コロナ禍の新しい国際教育交流の潮流と方向性

コロナ禍によって注目を浴びた ICT (Information and Communication Technology: 情報通信技術) による国際教育の手法は、今後の国際教育交流の主流となりつつある。主な手法として、①Virtual Exchange (VE), ②Virtual Mobility (VM), ③Collaborative Online International Learning (COIL), ④Blended Learning (BL) が挙げられる (太田 2021, 新見・星野・太田 2021)。①VE は学習者主体の地理的・文化的に異なる人々との交流や異文化理解, ソフトスキルの習得に ICT を活用するものである。

COIL (国際協働オンライン学習プログラム) は、米国の State University of New York によって 2006 年に開始された。COIL は異なる国や地域に所在する 2 か国以上の大学において、授業を提供する教員同士が共同でシラバスを作成し、オンラインで国際的な協働学習の要素を組み込んで実施されるものである。COIL が期待される効果として、①数か国との協働学習や比較学習活動, ②学生のリーダーシップ能力やプロジェクトの企画運営能力, ③ICT リテラシーの向上, ④教員間ネットワークの醸成, ⑤留学が難しい学生への国際交流機会の提供, ⑥オンラインと対面を組み合わせた教育手法による新たなグローバル教育の構築, ⑦海外留学派遣や外国人留学生受入れなどの世界的な学生移動の向上, が指摘されている⁵⁾。この COIL を活用したグローバル教育が、今後国際教育交流の主流になっていくものとして、現在多く大学が積極的に取り組んでいる。

現在、「スーパーグローバル大学創成支援事業」では、大学の国際化に関わる取組みや研究の実施・共有・展開, 情報の提供・共有を行う 18 の大学による 19 プロジェクトが中心となり、国際化をオールジャパンで促進する大学の主体的な活動の場「大学の国際化促進フォーラム (JFIU)」⁶⁾ が展開されている。文部科学省等関係機関とも連携しつつ、国際通用性・競争力を高めるために、大学間が横連携で参画し、多様な国際化・国際戦略を目指している。本学は、2021 年度より次の 3 大学のプロジェクト, ①筑波大学「Japan Virtual Campus」(オンライン国際教育プラットフォーム), ②名古屋大学「我が国の大学教育国際化に資するジョイント・ディグリープログラムの促進」, ③関西大学「Japan Multilateral COIL/VE Project (J-MCP) — 多方向・多国間の COIL/Virtual Exchange 型養育プロジェクト」(他: 大阪大学「多様な文化・言語圏からの留学生リクルート:バーチャル大学ツアーの実施」) に参加し、国際交流の推進・留学生の獲得を図っている。

2021 年度三重大学国際交流センターでは、①VE として国際交流サービス授業「日本語コミュニケーション」や国際交流事業「日本語ディスカッション」⁷⁾, ②VM として一般の日本語教育コースの授業を実施した。本事業は、③COIL に該当するものとして本稿で紹介する。本事業を実施することによって、COIL による国際協働学習がどの程度学習効果を上げることができるのか、現地に行かずしてオンラインで語学研修やフィールドスタディを行うことで、グローバル人材育成や留学促進を目指すことができるのか確かめたい。

3. 事業の概要

3.1. 事業の内容

1) 目的: 中国経済の躍進は目覚ましく、日本と中国をめぐる経済・社会・文化活動は今後も重要である。そこで、本学の学生に在学期間において、中国語や現代中国の状況を知る機会を提供し、将来国際的に活躍する人材を育成することを目的として本事業を企画した。本事業では、①中国語を学ぶ, ②現代中国を知る, ③協働学習を行って学生同士の交流を図る, ④訪問先の都市の文化・社会を知る, を目的として、オンラインによる語学研修およびフィールドスタディを実施した。北京外国語大学の中文系・日文系・弁公室と協力し、中国語 (北京語) の講習, 日文系学生との交流を図った。また、日中経済協会北京事務所と Zoom で繋ぎ、現代中国を学んだ。

2) 日程とスケジュール: 図 1, 図 2 参照

- I. 8月17日(水)～8月24日(水) 北京外国語大学講師による中国語語学研修
- II. 8月23日(火) 日中経済協会北京事務所所長の講演
- III. 8月22日(月)～8月26日(金) 三重大学の学生と北京外国語大学日本語学科の学生との交流活動

8/15 (月)	8/16 (火)	8/17 (水)	8/18 (木)	8/19 (金)
一斉休業	一斉休業	9:00～9:30 オリエンテーション	9:00 Zoom 入室	9:00 Zoom 入室
●事前 Zoom 打合せ ・三重大学学生 8月21日(火) 12:10～12:45 ・北京外国語大学学生 8月17日(水) 12:15～12:45		①日程について ②中国語について ③日本語学科との交流方法	9:05～9:55 中国語③	9:05～9:55 中国語⑥
①日程確認 ②中国語テキスト 配布 ③8月26日三重県紹介グループ決め ④参加者のリスト・メールアドレス ⑤アンケート報告 *事前打合せ後送付		④テーママッチング結果 ⑤中国語の先生のご紹介	10:05～10:55 中国語④	10:05～10:55 中国語⑦
		9:30～9:55 Yu wenxuan 先生、中国語 オリエンテーション	11:05～11:55 中国語⑤	11:05～11:55 中国語⑧
		10:05～10:55 中国語①	11:55～12:00 連絡事項	11:55～12:00 連絡事項
		11:05～11:55 中国語②		
		11:55～12:00 連絡事項		

図 1. 北京外国語大学: 語学研修

8/22 (月)	8/23 (火)	8/24 (水)	8/25 (木)	8/26 (金)
9:00 Zoom 入室 9:05 ~ 9:55 中国語① 10:05 ~ 10:55 中国語② 10:55 連絡事項	9:00 ~ 10:30 ・グループ検討会 (i) ①グループ対面 ②発表内容の検討 メール交換・確認	9:00 ~ 10:10 中国語③ 1人5分 10:10 ~ 10:30 中国語④ フィードバック まとめ、感想	9:00 Zoom 入室 ・グループ検討会 (ii) ・発表内容の検討 ・PPTの作成・完成 ・発表者はどうするか？	9:00 Zoom 入室 9:05 ~ 10:30 ・グループ成果発表会 9:05 ~ 9:25 Aグループ 9:25 ~ 9:45 Bグループ 9:45 ~ 10:05 Cグループ 10:30 ~ 11:45 ・視察研修 (Zoom) : 三重大・伊賀紹介、伊勢神宮 北京外大紹介、故宮紹介、万里の長城 北京・三菓草の紹介 (学生発表: PPT or 動画) *総括 ・記念撮影 ・報告書・アンケート提出 ・グループPPTの提出 11:45 ~ 12:00 ・反省会 (三重大生のみ) ・報告書の提出 (別紙) 中国語のテスト結果
11:00 ~ 11:55 ・北京外国語大学学生と対面式 ①日本語学科の先生のご紹介 - 費曉東 先生 - ②日本語学科の参加学生相互に自己紹介 ③グループ検討会の予定 ④テーマ・グループ発表	10:40 Zoom 入室 10:45 ~ 11:55 ・日中経済協会北京事務所所長の講演 ・川合現所長 ・質疑応答	10:30 ~ 12:00 ・グループ検討会 (ii) ・発表内容の検討 ・PPTの作成	11:50 ~ 12:00 進捗状況確認、連絡事項	11:55 ~ 12:00 連絡事項

図2. 北京外国語大学：フィールドスタディ

3) 参加者

・三重大学 11名：教育学部 2名 (1年生, 2年生), 人文学部 4名 (1年生 2名, 2年生 2名), 生物資源学部 2名 (1年生 2名), 医学部 2名 (1年生 1名, 2年生 1名), 国際交流センター 1名, 男 3名 女 8名, タイ, ドイツ留学生を含む。

・北京外国語大学 9名：日本語学科 (1年生 3名, 2年生 3名, 3年生 1名, 大学院 2名), 男 3名 女 6名
*出席率：三重大学 95.5%, 北京外国語大学：96.2%

4) 研修先：

北京外国語大学中文学科, 北京外国語大学日文学科, 日中経済協会北京事務所

5) 担当教員・講演者：

北京外国語大学中文学科担当教師：于雯宣先生, 日本語学科講師：費曉東先生, 日中経済協会北京事務所：川合現所長 (講演者)

6) 研修・交流内容

①語学研修：北京外国語大学中国語テキスト“Learn Chinese with Me” (Student’s Book1) 初級レベルの場面シラバスを中心として, 8月17日~24日まで50分×12回, 最終日に会話テストを実施した。

②8月23日に日中経済協会北京事務所所長による「現代中国を知る」の講演を聞き, 質疑応答を行った。

③グループ検討会・発表会：学生が関心のあるテーマに基づき, 北京外国語大学 (日文系) と三重大学の学生とがグループを編成し交流を図った。グループ全員で発表するテーマを決め, 発表内容をディスカッションし, 最終日にその成果をまとめて発表した。

④三重大学の学生は, 3グループに分かれて, 三重 (日本) の地域や文化について紹介をした。北京外国語大学の学生も, 3グループに分かれて北京 (中国) の地域や文化について紹介した。

7) その他：

①80%出席者には修了書を授与した。②中国語学習は日本語ができる教師の指導の下に, 日本語で中国語初級会話を学んだ。③北京外国語大学とのグループ検討会は日本語で行った。④参加者は全員が最終日にグループ成果発表会で発表をした。⑤日中経済協会の講演会は両大学の全員が出席した。⑥三重大学の紹介には, 三重大学 2021CD (広報), 三重大学地域拠点サテライト・伊賀サテライト (<https://www.rscn.mie-u.ac.jp/iga/index.html>), 北京外国語大学の紹介には, <https://www.pekingaidai.gr.jp> を使用した。

3.2. 中国語 (北京語) 語学研修

1) 学習内容：

北京外国語大学中国語テキスト“Learn Chinese with Me” (Student’s Book1)



図3. 北京外国語大学中国語テキスト

CONTENTS	
Chinese Phonetic Transcription (Pinyin)	
Unit One: Hello, Classroom and Teacher	1
1 你好	2
2 再见	6
3 我是王大明	10
4 老师	14
5 谁是你的好朋友	20
6 谁门是你的朋友	25
Unit Summary	30
Unit Two: Playing out with My Friends	33
7 玩游戏	35
8 谁是你的好朋友	41
9 谁是你的好朋友	47
10 谁是你的好朋友	54
11 谁是你的好朋友	59
12 谁是你的好朋友	64
Unit Summary	68
Unit Three: My Family and I	71
13 你多大	73
14 谁是你的朋友	77
15 谁是你的朋友	81
16 谁是你的朋友	86
17 谁是你的朋友	91
18 谁是你的朋友	95
Unit Summary	100
Unit Four: Four Seasons of the Year	102
19 谁是你的朋友	104
20 谁是你的朋友	109
21 谁是你的朋友	114
22 谁是你的朋友	120
23 谁是你的朋友	125
24 谁是你的朋友	130
Unit Summary	136

図4. 第1課「你好」～第24課「冬点冷, 夏点熱」



図5. 中国語の Zoom 学習風景

事業実施前に、于雯宣先生とZoomで3回打合せを行い、指導方法やブレイクアウトロームの使い方について説明した。一日50分を12コマ実施し、第1課「你好」～第24課「冬点冷、夏点熱」まで学習した。最終授業で一人ずつ既習範囲の句型について、10問の会話テストを実施した。中国語会話テストは、三重大大学の学生全員が受け、平均点88.6点で好成績を得た。

3.3. 日中経済協会北京事務所所長の講演会

講演者の川合現北京事務所所長とZoomで打合せを行い、本事業の趣旨について説明を行った。「現代中国を知る」の講演内容について、配布許可を得てPPT資料を掲載する。

The presentation consists of 11 numbered slides:

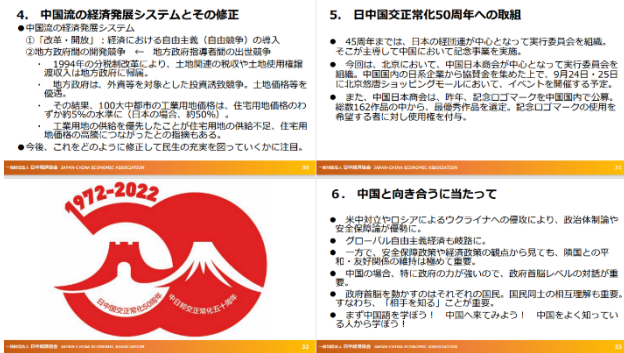
- Slide 1:** 現代中国を知る (Modern China). Includes a self-introduction of the speaker, Ken Kagawa, who has worked in business and trade between Japan and China for over 20 years.
- Slide 2:** 日中経済協会の大事業 (Major Business of the Japan-China Economic Association). Lists key events such as the opening of the Beijing office in 1962 and the signing of the Japan-China Economic Cooperation Agreement.
- Slide 3:** 1. 北京での生活から ～価格比較～ (Life in Beijing ~ Price Comparison ~). Compares prices for food and services between Beijing and Japan.

品名	中国 (北京)	日本 (東京)
鶏肉（鶏ゴシク）	1.4元 (28円)	260円 (鶏肉スーパー)
スイカ	1.5元 (30円)	3,000円 (スイカスーパー)
- Slide 4:** 身近なブランド品 (Nearby Brand Products). Compares prices for McDonald's (26元 vs 390円) and Uniqlo (299元 vs 3,900円).
- Slide 5:** 高級自動車 (High-end Cars). Compares a Lexus SL (115.7万円) in China with a similar model in Japan (1,327万円).
- Slide 6:** 一般的な人気車種 (Popular Car Models). Compares car prices between China (e.g., MG5 at 7.97万円) and Japan (Toyota Corolla at 13.5万円).
- Slide 7:** 公共交通機関の運賃 (Public Transport Fares). Compares bus fares in Beijing (1元) and Tokyo (210円).
- Slide 8:** 高速鉄道/新幹線 (High-speed Rail/Shinkansen). Compares train fares between Beijing and Tokyo.
- Slide 9:** 電気料金 (Electricity Rates). Compares electricity prices per kWh between China (0.48元) and Japan (26.48円).
- Slide 10:** ニュースパースタジオの入場料 (Newspaper Studio Entrance Fee). Compares the cost of a newspaper subscription in China (8元) and Japan (6,000円).
- Slide 11:** 中国の統治構造 (China's Governance Structure). Explains the political system under the leadership of the Communist Party of China.

図 6. 日中経済協会北京事務所 川合現所長の講演

The presentation consists of 11 numbered slides:

- Slide 1:** 1. 北京での生活から ～中国にはないもの～ (Life in Beijing ~ Things Not Found in China ~). Compares daily life and payment methods (Alipay, WeChat Pay).
- Slide 2:** シェアリング自転車 (Sharing Bicycles). Shows a comparison of bike-sharing services between Beijing and Japan.
- Slide 3:** 配車サービス (Ride-hailing Services). Discusses services like Didi and compares them to Japanese taxi services.
- Slide 4:** 「淘宝 (タオバオ)」 ネットショッピング大手サイト (Taobao - Leading Online Shopping Site). Discusses the popularity of Taobao in China.
- Slide 5:** 健康コード (Health Code). Explains the health code system implemented during the pandemic.
- Slide 6:** 自動車のナンバープレートの撤廃 (Abolition of License Plates). Discusses the impact of removing license plates on traffic management.
- Slide 7:** ナンパ～実況 (Pickup - Live). Discusses the concept of 'picking up' (ナンパ) in the context of dating and social norms.
- Slide 8:** 厳格な戸籍制度 (Strict Household Registration System). Explains the Hukou system and its importance.
- Slide 9:** 巨額な婚約事件 (Large Engagement Case). Discusses a high-profile engagement case involving a large sum of money.
- Slide 10:** 1. 北京での生活から ～中国にはないもの～ (Life in Beijing ~ Things Not Found in China ~). Continuation of daily life comparisons, including social media and public transport.
- Slide 11:** 2. 統計データから見る日中比較(1) (Comparing Japan and China from Statistical Data (1)). Presents data on population, GDP, and other indicators.



まず、日本と中国の公共料金や価格比較、北京の生活において日本にはないもの、寿命や大学初任給など統計データから見る中日比較など、学生には身近な話題が取り上げられた。次に、中国の統治構造や中国流の経済発展システム、日中国交正常化 50 周年への取組、中国との向き合い方という少々難しいテーマへと、わかりやすく「現代中国を知る」についてご講演いただいた。講演の後は、30 分ほどの両大学からの質疑応答があったが、学生には質疑応答の時間がもう少しほしかったという感想がある程の充実した講演だった。

3.4. 日本語学科との交流活動

1) 実施前の準備作業：

日本語学科の費暁東先生とは Zoom で打合せを行い、本事業についてご理解および事業実施の協力を得た。その結果、日本と中国の文化比較の検討・発表の後に、双方の大学がグループごとに地域の紹介を行うことにした。

両大学の学生には実施前の参加申込書に、どんなテーマで検討したいか第 1～3 希望を書いてもらい、参加者の希望に沿って 6、7 名ずつの 3 グループを編成した。毎回ブレイクアウトセッションで協議され、以下のテーマが各グループの発表テーマとなった。

・グループ成果発表会

- ①食文化グループ（三重大学 3 名+北京外国語大学 3 名）「日本と中国の料理の味付けの違いについてー甘味と辛味からー」
- ②ポップカルチャーグループ（三重大学 4 名+北京外国語大学 3 名）「番組の比較から見る日本と中国の違いー紅白・バラエティー・ドラマからー」
- ③文字・文学グループ（三重大学 4 名+北京外国語大学 3 名）「中国語と日本語の流行語に関する違い」

2) 3 グループの検討成果発表について

①食文化グループ：

日本と中国の料理に使う調味料の甘味と辛味の違いについて調べた。甘味では共通して使用される砂糖を除き、日本のみりんは料理の最中によく使用されるが、中国の甜麵醬は料理の完成後に混ぜたりつけたりする際に使用される。一方、辛味は日本の山椒と中国の花椒を取り上げ、生育地や利用する部位の違いを述べた。山椒は柚子のような柑橘系の香りとマイルドな辛味であるが、麻婆豆腐で使われる花椒は舌がしびれるような辛さを持つことを説明した。



図 7. 日本と中国の料理の味付けの違いについて
ー甘味と辛味からー

②ポップカルチャーグループ

ポップカルチャーグループは、日本と中国のテレビ番組の比較を行った。日本のドラマは中国で人気があり、幼少期からアニメを見てきたので日本のコンテンツ産業に親しく、日本語の字幕が付いているため、日本語を勉強するには最適だと述べた。また、中国のバラエティー番組はトーク番組が主流で、話の上手な番組司会者が場を盛り上げる特徴がある。日本のようなリアクション芸やコントなどを披露することは余りなく、根本的な違いは笑いの文化が異なるのではないかと説明した。



図 8. 番組の比較から見る日本と中国の違い
ー紅白・バラエティー・ドラマからー

③文字・文学グループ

文字・文学グループは、日本と中国の流行語の違いについて調べた。日本では、一人でいるのが好きで自分の趣味と生活を大切に、恋愛に時間を費やさない男性を指す「仏男子」という流行語がある。一方、中国でも「躺平（タンピン）」（「だらっと寝そべる」という仕事をしないで何も求めないライフスタイルの若者を称する流行語があることが紹介された。両国共に若者の無気力感が注目された。また、Z世代などインターネットの普及やコロナ禍などの影響で、世界で共通した流行語が生まれていると説明した。

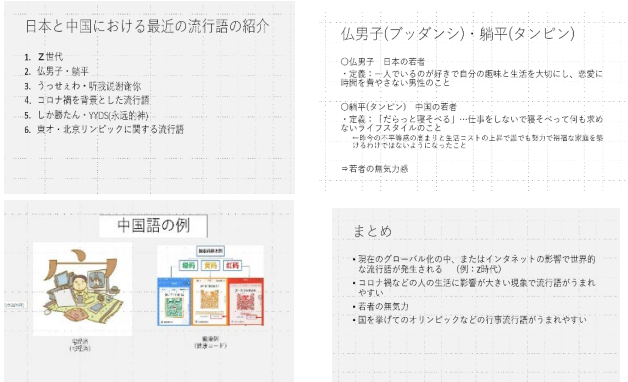


図9. 中国語と日本語の流行語に関する違い

3) 視察研修 (オンライン) : 三重県 (日本) の紹介, 北京市 (中国) の紹介

本来のスタディ・ツアーであったならば、グループで半日視察研修を行う予定であったが、今回はオンラインで、三重県 (日本文化), 北京市 (中国文化) の紹介を行った。三重大学と北京外国語大学の学生への事前Zoom説明会で、地域紹介グループを決め、下記のようにグループ編成を行った。

- ・三重大学 : ①伊勢神宮の紹介, ②観光地の紹介, ③伊賀忍者の紹介,
- ・北京外国語大学 : ④京劇の紹介, ⑤北京の紹介, ⑥天津の紹介

①伊勢神宮の紹介では、日本古代史から始まり、江戸時代のおかげ参りや式年遷宮、雅楽やお祓い横丁など、詳細な説明があった。②観光地では、今秋開園予定のジブリパークや上高地・白川郷、伏見稲荷・清水寺など三重県に近い観光地の紹介があった。③伊賀忍者の紹介では、伊賀忍者博物館の紹介や手裏剣投げを体験した感想が述べられた。④京劇の紹介では、4種のキャラクターの紹介、歌舞伎との違い、動画を紹介してくれた。⑤北京の紹介では、故宮や天壇公園の紹介の他に、秦の時代の長城のレンガのつなぎには、もち米の粉が使われていたことが最近の発掘でわかった

など、興味深い説明があった。⑥天津出身の学生が多かったので、天津の名物に関する紹介があった。



図10. 三重県 (日本) の紹介, 北京 (中国) の紹介



図11. Zoom 協働学習の風景 (学生対面式)

4. 本事業についてのアンケート結果

事業終了後に、アンケート調査を行った。三重大学生10名、北京外国語大学生9名から回答を得た。

- ①目的: 語学研修・日中経済協会北京事務所長の講演・日本学科との交流についての感想, 来年度以降の活動形態を尋ねる。
- ②全設問数: 全設問数は8項目で、1~7項目は3~4の選択肢からなり、8項目目は自由記述である。

本事業全体については、図12のように、三重大学91%、北京外国語大学90%が「全体的に楽しかった」という結果だった。



図12. 事業全体についてのアンケート

4.1 中国語（北京語）語学研修

Q2. 中国語学習では、何がよかったですか。
(2つ回答) (三重大学生のみ)

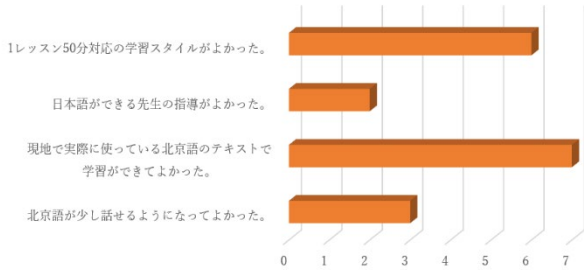


図 13. 中国語（北京語）語学研修のアンケート

<感想>

- ・レベルとしては、一年生の第二外国語の授業のレベル感であったが、再度復習できたことに加え、新たな単語や文法を学ぶことができて良かった。また、先生がとても優しく、楽しく勉強を行うことができた。欠席した分を個別に授業を行ってくださった点も良かった。これからもっと中国語を話せるように勉強していきたいと思った。
- ・最後のテストが質問に答える形式なのが良かった。文法などが分かっている、会話などに生かしていないなど、今後の改善点を見つけることができた。
- ・グループワークも多く、会話を通じて中国語が学べてよかったと思います。また、大学のテストでは筆記でしたが、ここでは先生との会話のテストだったので、より頭を使うことができたと思います。
- ・普通の大学の授業でまだ習っていない単語や表現をたくさん学ぶことができて非常に良かった。
- ・三重大学の授業の中でも、中国語をとっているのですが、今回の研修では、話すことをテーマにした授業で、たくさんの人と中国語を使ってコミュニケーションすることができて良かったです。
- ・先生の指導方法が非常にわかりやすいと思います。
- ・テキストも「日常会話ができるようになる」という目標に照らすとよくできていたと思うが、担当の先生が良かった。厳しい授業予定をこなし、かつ音読練習や応用会話の時間もしっかり取られていた。テキスト以外に、中国文化の豆知識（音楽や挨拶など）も織り交ぜて授業してくださったので退屈しなかった。授業外のフォローもメールでしてくださった。自分の名前が発音できない言語は初めてで（漢字が中国語読みになるため）、初日にあきらめかけたが、先生の「発音が難しいと思いますが、落胆しないでよく練習してくださいね」というメールがあったので、最後まで授業に

ついていけた。

- ・今まで中国語を全く学んだことがない中で、終始優しく日本語を交えながら教われたのはとてもよい経験だったと思う。この授業をきっかけにして中国語について学んでいけたらいいと思う。

4.2 日中経済協会北京事務所所長の講演会

Q3. 日中経済協会の講演はいかがでしたか？
(2つ回答) (三重大学生のみ)

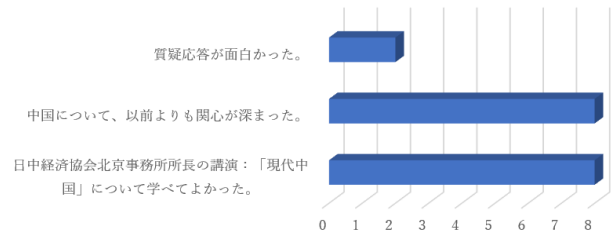


図 14. 日中経済協会北京事務所所長講演会アンケート

<感想>

- ・中国に関しては、主に歴史を学ぶことが今まで多かったが、この講演で現在の中国について多くのことを学べた。特に中国と日本の価格の比較が面白かった。また、質疑応答が活発で、日中それぞれの関心の高さが見られた。
- ・中国は衛生面などでいい印象を持っていなかったが、日本も規制がなかった時代と同じようなものだった。今後、社会の要求に応じて変化していけばとてもいい国になると感じた。特にデジタル社会化など新しいことを積極的に取り入れているのが素晴らしいと思った。実際に、日本と中国の両国で生活したことがある人の話を聞いたので、両国の違いをよく理解できた。
- ・はじめは経済について固めなお話だと思っていましたが、中国での生活についてなどのお話が多く、楽しめました。いつか中国に行ってみたいと思うようになりました。
- ・様々な視点からの話を聞くことができてとても興味深かった。実際に働いている人の考えを聞き、質問ができるのは非常に貴重な機会であった。
- ・データから見る日中比較が具体的な例を挙げながら、お話をしてくださり、とても分かりやすかったです。特に、今中国では新幹線などの公共交通機関が発達しており、日本よりも比較的安い値段で乗れるという話には驚きました。コロナなどの対策が日本では批判的に捉えられていますが、中国では実際にそんなに批判的に捉えられていないという話を聞いて、たくさん情報に触れることが必要だなと感じました。

- ・「現代中国」に対する関心が深まりました。
- ・講演者の実生活が基になっているので、中国の様子を掴みやすかった。「経済協会」というだけあって、価格を基準に日中を比較していた。公共交通機関や自家用車など見知ったものが多かったので、経済学を苦手とする私でも内容が身近に感じられ、むしろ分かりやすかった。パンデミックへの政府の対応として、アプリを使った大規模な感染対策が政府主導・中国全土で行われているのには驚いた。トップダウンというか、大胆というか、中国の偉大さを感じた。心残りと言えば、発表者と学生の会話がもっと聞きたかった。
- ・中国については、私は政治的な話以外はほとんど耳にする機会がなく、どの商品が日本と比べて高い・安いなどの日常的な話題を知ることができたことはよかったと思う。

4.3 日本語学科との交流活動

Q4. 日本語学科との交流はいかがでしたか？
(2つ回答) (三重大学生)

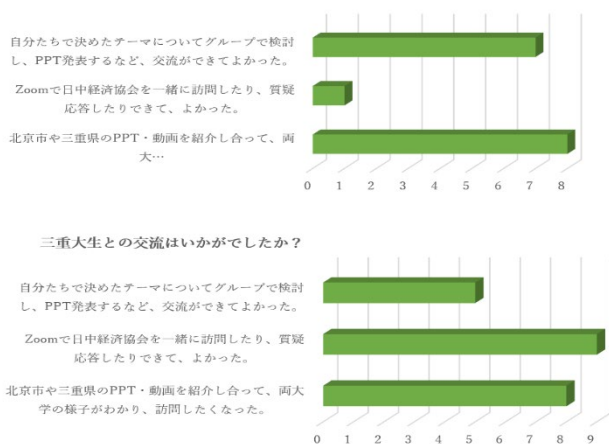


図 15. 日本語学科との交流活動アンケート

<感想>

(三重大学生)

- ・北京外国語大生の日本語がとても上手で驚いた。また、検討会においては、積極的に話を進めたり、作業に取り組んだりする姿勢に尊敬し、勉強になる部分が多くあった。また、討議だけでなく、お互いの好きな食べ物やドラマ、また趣味や所属している部活など、色々な話もすることができ、とても楽しかった。
- ・日本で報道される中国に関するニュースはあまりいい印象がなく、中国人とうまく話せるか不安だったが、実際に交流してみると日本人と性質はあまり変わらなかった。偏見を持っているときは実際に自分の目で確かめることが大事だということを知った。

- ・北京外国語大学の学生さんの日本語力に驚きました。私も学生さんが日本語を流暢に話していたように、中国語を話してみたいと思いました。
- ・実際に中国の方たちと話し合いながら発表の準備をすることは互いの国の文化を知るきっかけにもなってとても楽しかった。
- ・北京外国語大学の皆さんと交流ができてよかったです。中国の生活や文化などを紹介していただき、中国についてこれまでよりも深く理解することができました。また、北京外国語大学の皆さんの日本語が本当に上手で、自分も中国語をもっと磨いて、中国語で話せるようになりたいと感じました。
- ・皆さんとグループワークしたり、話し合ったりできて楽しかったです。
- ・一部の日程に参加できず非常に残念だったが、顔合わせの際に北京外国語大学の学生の様子がわかるだけでも面白かった。
- ・中国について紹介するPPTや動画を見て、中国に行ってみたくなった。特に、万里の長城や京劇を見たいと感じた。京劇はネット配信などでも見ることができるとか調べてみようと思った。

(北京外国語大学生)

- ・日本の方と交流できて本当に嬉しかったです。
- ・日本のメンバーと一緒に課題研究ができて、すごく貴重な体験になりました。ありがとうございました。
- ・三重大の皆さんはとても親切で、会話は楽しかったです。
- ・初めて日本人の大学生と話す機会をいただいてすごく嬉しく思いました。前に両国間の摩擦で交流が順調に進むかどうかちょっと不安でしたが、実際にみんなは優しかったので、討論会も楽しかったです。
- ・三重大のみなさんとの交流会はスムーズに行われて、とてもありがたい機会でした。ご紹介いただいたおかげで、ぜひ三重大に留学してみたいと思うようになりました。
- ・先生と三重大の皆さんと一緒に交流できて本当にうれしいと思います。交流活動を通じて、日本と中国の食文化の違いがわかるようになりました。そして、日中経済協会の川合所長の講演を伺い、大変勉強になりました。本当に良かったと思います。
- ・日本語はまだ上達になっていませんが、三重大の皆さんは優しく、話を真面目に聞いてくれて、嬉しかったです。

4.4 来年度以降の活動形態

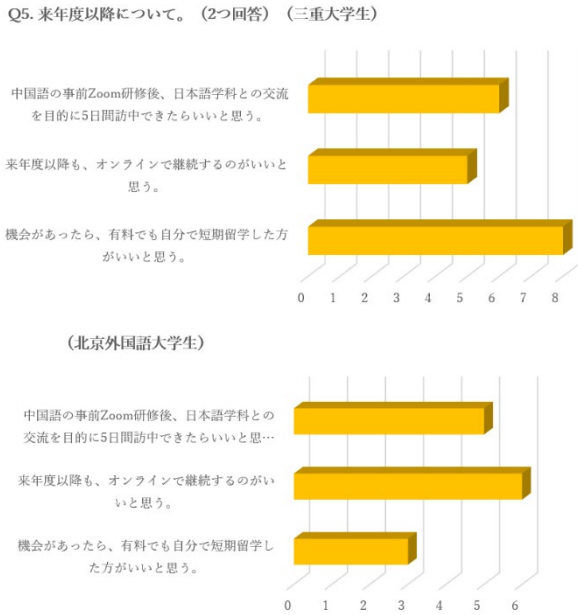


図 16. 来年度以降の活動形態に関するアンケート

<感想>

(三重大学生)

- ・今回の研修はオンラインという形であったが、中国学生としっかり交流することができ、とても満足感を得ることができた。実際に中国に行ってみたく思うが、来年以降もコロナの終息の見通しが立たないと考え、そのため、来年度以降もオンラインの継続で良いのではないかと思う。
- ・オンラインでの交流のほうが費用の面と時間の面で手軽でいいと思ったが、話していると対面で話せたらもっといいと思うことが多かった。中国の伝統、社会、現代技術など興味深いことが多いので、有料でも1~2か月程度の留学ができたらいいと思った。
- ・オンラインでの交流会は気軽に他の国の人と会話をしたり、PPTを作ったりできてよかったと思います。しかし、実際に中国に行く機会を大学で設けてもらえたら、より実践的な中国語に触れることができると思います。
- ・機会があればぜひ一度中国に行き、実際に対面でも交流してみたいと感じた。
- ・コロナが収まったら現地に行ってみたくです。
- ・実際に会えるといいと思います。
- ・オンラインで実施されると、実際に渡航するのに比べて費用も手続きもかなり少なく、また自分の慣れ親しんだ環境で参加できる。この点を考えると、今回のような中国語初学者向けの短期の講座はオンラインで行うのが良いと思う。一方、ある程度中国語を学んだ状態であれば、ぜひ現地に行って「体験」するのが最

も刺激的で費用対効果も高いだろう。

・可能であれば、現地に行って交流する方がいいと思う。お互いに直接会って話すことができた方が、画面の向こう側にいるよりも交流しやすい点も多いと考えるからだ。しかし、昨今の情勢を考えると、オンラインでもやむを得ないとも考える。

(北京外国語大学生)

- ・日本に留学したいと思います。
- ・今後も引き続き協定校との交流活動に参加していきたいと思います。
- ・三重県へ観光に行ってみたくなりました！
- ・この五日間、日本の方々とたくさん日本語で話をし、会話力がアップしたように思います。そして、日本のことをいっぱい紹介してくださったので、すごく勉強になりました。
- ・この交流活動を通して、いろいろ勉強になりました。できれば、今度の語学研修や交流活動で、日本の皆さんと中国語でコミュニケーションができればいいなあと思っております。
- ・オンラインでの交流活動は面白くて素晴らしいが、機会があったら、現地で皆さんと話し合い、異なる文化を直接的に感じるのはもっと役に立つと思います。
- ・三重大学の皆さん到北京外大に来てもらいたいです。

4.5. 関係者からの感想・コメント

1) 中国語教室：于雯宣先生

2022年度「北京外国語大学：語学研修&フィールドスタディ」の中国語先生を担当する機会ができて光栄だと思う。学生たちは中国語を学ぶ姿勢に熱意があり、質問にも積極的に答えてくれていて、真剣に練習していた。学生たちのアンケートの中で「この授業をきっかけにして中国語について学んでいけたらいいと思う」、「中国の日常的话题を知ることができた」、「中国へ偏見を払拭することができた。」といったフィードバックを見て、本当に嬉しい。今回の交流を通じて、学生たちが中国語の勉強を続けていく興味と自信を与えることができることを望んでいる。普段日常生活の中で、中国に来たことがない人にとって、主にSNSから中国に関する情報を受け、その影響が大きいと思っている。だから、もしできたら、今後学生たちが中国語で、自分の目で本当の中国と中国人を理解して、友達や家族に紹介することができたらいいなと希望している。それが、リアルな中国を知ってほしいという、今の専門を選んだ理由だからだ。最後に、主催された先生のご協力に心から感謝申し上げます。

どうもありがとうございました。

2) 三重大学との交流 日本語学科：費曉東先生

この度、三重大学と北京外国語大学の学生の交流活動に参加させていただき、心より感謝申し上げます。両大学の学生の交流を拝見し、特に最終日の課題発表を聞いて、改めて「交流」することの大切さを感じることができました。

皆さんは、中国と日本の建物、食べ物、ドラマ、バラエティー、流行語などを詳しく調べていました。中日両国の様々な文化において、その違いを議論しただけでなく、なぜ違うのかといった文化の背後にある歴史や習慣などの深い知識をも勉強することになりました。また、両大学の学生と一緒に課題を解決し、直接に話すことによってお互いのこともよく分かるようになったのではないかと思います。今回の交流をきっかけに、もっと相手の国のことを知りたい、という気持ちが強く生まれ、中国と日本の友好交流にも貢献できたと言えるでしょう。

今回の両大学の交流活動を通して、「友好交流」は、「友好」があって「交流」が始まるのではなく、むしろその逆で、「交流」があってはじめて「友好」が始まるんだと感じるようになりました。これからも、このような交流活動を学生に提供できるよう心より期待しております。

5. 考察

本事業の意義としては、次の5点が挙げられる。

- ①コロナ禍においても、本学の学生と海外協定校の学生との相互交流や異文化理解に貢献できた。
- ②本来は移動や経費を伴う語学研修であるが、オンラインでの実施により、必要経費のみでの実施となったばかりでなく、短期留学の成果を十分に達成することができた。
- ③昨今の報道により双方の学生が互いの国に対して偏見を持っていたが、本事業の交流活動によってその偏見は払拭される機会となった。
- ④日中経済協会北京事務所所長の「現代中国を知る」講演を聞き、双方の学生がそれぞれの視点から現代中国の知識を得ることができた。
- ⑤文化や言語の異なる学生が参加する国際共修型のCOIL授業を展開することができた。

大きな収穫としては、③である。近年の日中関係やロシア軍ウクライナ侵攻等のメディア報道の影響で、実施前は両国の大学の学生交流が円滑にできるか心配していたが、実施後相互の交流活動の大切さを実感したという感想が多かったことだ。アンケートの感想を例に挙げれば、「中国へ偏見を持っていたが、相手が日本に対して好意的な方ばかりという偏りはあるが、実

際に交流してみると思っていた感じと全く違ったので、偏見を払拭することができてよかった。偏見は持つべきでないという社会の一員として大切なことを学ぶことができた。偏見を持った時は深く知ったうえで判断すべきということも学んだ」。また、「これほど中国という国が身近に感じたのは初めてのことで、今までは中国について政治的な話以外はあまり知ることができず、現代中国に対してあまりいいイメージを持っていなかったが、今回の交流でそれがかなり改善された。改善されたことを、自分としては嬉しいと思っている」という感想を得た。この感想に呼応するかのようになり、北京外国語大学の学生からも、「前に両国間の摩擦で交流が順調に進むかどうかちょっと不安でしたが、実際にみんなは楽しかったので、討論会も楽しかったです」(4.3)という感想も得られた。

その他のアンケート結果では、中国語学習や長期留学の希望や充実した交流活動の成果が挙げられる。「以前は2週間程度の短期留学をしたいと思っていたが、今回の交流を経て3か月以上の留学をしてみたいと考えようになった」、また、「ネイティブの先生から中国語を学んだり、中国の大学に在学する学生と交流したり、中国について中国人の方に教えてもらったりする機会など、普通得られるはずもないことだったが、今回それらを経験することができて、とても嬉しく思う」。「北京外国語大の学生の日本語がとても上手で、自身の勉強のモチベーションが上がった。また、検討会においては、積極的に話を進め、作業に取り組む姿勢に尊敬し、勉強になる部分が多くあった。今回の研修を通し、中国へ行ってみたい気持ちが高まり、もっと中国学生と交流してみたいと思った」。一方、北京外国語大学の学生からは、「日本と中国の文化の違いがわかるようになりました。資料を収集した時、皆さんと意見を交換した時、自分の日本語レベルも上がるような気がした」という感想も多く聞かれた。当初、北京外国語大学の学生は1年生が3人いて、グループ協議や成果発表ができる日本語レベルが心配だったが、むしろ三重大学の学生に刺激を与えるほどであった。北京外国語大学の学生も、初めて日本人と話す機会となるので、開始前は不安だったようだ。しかし、グループ内での討議が交流を通じた楽しさだけでなく、日本語の鍛錬にもなったことを実感したという複数の感想があり、双方にとっていい結果を生んだと言える。

ところで、感染の収束の気配が収まらないまま移動を伴う国際交流が回復傾向にある現在、グローバル人材の育成を目指した授業形態や留学形態などの国際教育交流は、今後どのような展開が考えられるだろうか。

2.1 で言及した総務省行政評価局（2017）による企業への調査結果が参考になる。まず、授業形態については、「グローバル人材の確保状況等に関する企業の意識調査」では、「企業が大学に求める取り組み」として以下の点が挙げられている。「①異文化理解力や海外赴任にも耐え得る経験を積むには留学が最も適当、②現地の習慣、文化、価値観などを理解し、そこで活動するためには異文化理解に関する授業が必要、③企業が主体性や積極性を持つ人材を育てる上で、ディベート等の対話型の授業が重要」である。グローバル人材の育成を目的とする場合、ディスカッションやディベート等の対話型の授業形態を通じた異文化理解力の養成が、企業から求められていることがわかった。

次に、留学形態については、総務省行政評価局（2017）による企業への「海外留学の期間」を尋ねた調査結果から理解できる。「①語学力の習得のみならず、現地の国民性や異文化理解が重要、②国際的な視野拡大を図るためには最低でも1年の留学期間が必要、③留学期間が長い者ほど、語学力はもちろんのこと、留学経験が業務に生かされていると感じる、④1年以上の長期留学経験者は数週間の留学経験者と比べ、多様な価値観を受容するといった経験の幅に違いを感じる」であった。これらの企業側の視点からは、留学形態としては、長期留学によるグローバル人材の育成が望ましいことが示唆される。

さらに、ポストコロナにおける国際教育交流の展望について、太田（2021）は次の①～⑤の留学形態を予測する。①短期留学は前後にICTを組み込んだBL（Blended Learning）が増えていく、②短期留学はインターンシップ・ボランティアワーク・サービスマーケティングなど現場での体験型に特化される、③語学を学ぶ短期留学はオンラインによる語学習得プログラムになる、④長期留学は学習成果重視となり、大学間連携の下で複数学位や共同学位プログラムによる学位取得型が増える、⑤ICTの活用による大学間連携が一層進みVEやVMによる国際教育交流が主流となり、留学は徐々に減少する、である。本事業のような語学や交流活動を目的とする短期留学の場合は、①や③や⑤の形態へと移行することが推測される。

以上を鑑みると、ポストコロナにおける将来の国際教育交流の方向性を見据えたとき、企業が必要とするグローバル人材育成や研究成果を重視した長期留学は、今後も大学による継続支援が必要である。同時に、COILを活用した複数学位や共同学位プログラムによる学位取得型を目指すなど、④の大学側のグローバルを意識した発展と展開も重要である。一方、短期留学

については早期に次なる展開が期待できると思われる。また、インターンシップなど実際現地での体験型研修を除き、語学研修や異文化体験を含む現地視察やフィールドスタディを目的とする場合、オンラインによるCOIL型の研修・交流活動で、十分に成果が発揮・達成できるのではないかと示唆される。

本事業を実施することによって、COILによる国際協働学習が十分な成果を上げることができた。現地に行かずしてオンラインでも語学研修の成果をあげることができ、協定校の学生同士がICTリテラシーの向上だけではなく、協働学習を通して知見や交流を深めることができた。教員間においても意見交換しながら協働学習を指導することができた。さらに、本学の国際教育活動においても、COILによる国際協働学習を積極的に展開することで、さまざまな形でグローバル人材の育成や留学促進が可能であることがわかった。

6. おわりに

今後の課題としては、雑談や学んだ中国語で話す時間の確保、電波の関係でZoomから外れてしまった学生への配慮、各グループの進捗状況への指示・関与のタイミングや方法など、オンラインでは主催する側が細かく配慮しなければならない点が挙げられる。今後も、目的や期待する事業成果、参加者や地域性など様々な点を考え、より拡大する文化や価値観を体験・共有しつつ、国際教育交流を実施していきたい。

謝辞

本事業の策定にあたり、北京外国語大学弁公室、北京外国語大学中文系の于雯宣先生、日文系の費曉東先生、日中経済協会北京事務所の川合現所長、北京外国語大学東京事務所、本学の協定校担当教員、国際交流関係教職員のご協力くださった方々に心より感謝申し上げます。

注

- 1) 「留学生30万人計画」とは、日本が世界に対してより開かれた国へと発展する「グローバル戦略」の一環として、2020年までに日本国内の外国人留学生を30万人に増やすことを目標とした文科省の施策である。2019年に留学生数は31万人に達した。
https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/1420758.htm (2022年9月21日)
- 2) 文部科学省（2015）「スーパーグローバル大学創成支援事業」の趣旨は次の通りである。「徹底した大学

改革と国際化を断行し、我が国の高等教育の国際通用性、ひいては国際競争力強化の実現を図り、優れた能力を持つ人材を育成する環境基盤を整備する。本事業のこれまでの実践により得られた優れた成果や取組を国内外に戦略的に情報発信し、海外における我が国の高等教育に対する国際的な評価の向上と、我が国大学全体としての国際化を推進する」。

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/s_ekaitenkai/1360288.htm (2022年10月9日)

- 3) 総務省行政評価局 (2017) 「グローバル人材育成の推進に関する政策評価書」参照。 (https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/107317_00009.html) (2022年10月9日)
- 4) 文部科学省の「第2期教育振興基本計画」(平成25～29年度)は、各学校間や学校教育、職業生活等の円滑な接続を重視し、「社会を生き抜く力の養成」を図った。少子化・高齢化・グローバル化など、日本が直面する危機的な状況を踏まえ、将来の社会のあるべき姿の実現に必要な指標や30の基本施策を整理した。 https://www.mext.go.jp/a_menu/keikaku/detail/1336389.htm (2022年10月9日)
- 5) 静岡県立大学 (2022) 「What is COIL?」 (<https://www.us-coil.jp/coil/>) 参照。COILの定型学習モデルとしては、①アイスブレイキング (Icebreaker)、②文化比較検証 (Comparison and Analysis)、③協働学習 (Project-Based Learning) の学修活動 (Collaborative Project) がある (新見・星野・太田2021)。
- 6) 「大学の国際化促進フォーラム」Japan Forum for Internationalization of Universities (JFIU) 参照。 https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/s_ekaitenkai/mext_01671.html (2022年9月23日)
- 7) 「日本語コミュニケーション」や「日本語ディスカッション」の成果報告については、『三重大学国際交流センター紀要』(2023)第18号参照。

参考文献

- 太田浩 (2021) 「高等教育国際化の未来ーポストコロナの国際教育交流を考えるー」『一橋大学高等教育研究』24, 111-130.
- 静岡県立大学 (2022) 「What is COIL?」 (<https://www.us-coil.jp/coil/>) (2022年12月9日)
- 総務省行政評価局 (2017) 「グローバル人材育成の推進に関する政策評価書」 (https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/107317_00009.html) (2022年10月9日)
- 新見有紀子・星野晶成・太田浩 (2021) 「ポストコロナに

向けた国際教育交流ー情報通信技術 (ICT) を活用した新たな教育実践より」『留学交流』120, 26-41.

文部科学省 (2013) 「第2期教育振興基本計画」 (https://www.mext.go.jp/a_menu/keikaku/detail/1336379.htm) (2022年10月9日)

SUMMARY

Due to the COVID-19 pandemic, international educational exchanges that involve international travel, such as studying abroad, have been greatly restricted and student exchanges have come to a halt. In response to this, with the cooperation of Beijing Foreign Studies University (a partner school) we conducted a COIL-type online eight-day event entitled "Beijing Foreign Studies University: Language Training & Field Study." There were 11 participants from Mie University and 9 from Beijing Foreign Studies University.

As evidenced by the feedback questionnaires, Chinese language teaching by Chinese faculty members was well received. Teaching employed Beijing Foreign Studies University textbooks, collaborative learning, exchange activities with Japanese students, and "Understanding Modern China" delivered by the director of the Beijing office of the Japan-China Economic Association. In particular, comments such as, "I had a prejudice against China, but participating in this project cleared my prejudice.", "I was worried whether the exchange would go smoothly due to friction between the two countries, but I was able to enjoy the exchange.", and "I now want to undertake long-term study abroad.", were noted.

Previously, short-term study abroad incurring the expense of physically travelling to the target area was the established orthodoxy, but it turned out that, depending on the content of the project, satisfactory results can be achieved online.

KEYWORDS: Covid-19, language training, field study, student exchange, online, COIL

† FUKUOKA Masako : COIL Trial: Online Language Training & Field Study – Chinese Training at Beijing Foreign Studies University and Student Exchange with the Japanese department –

* Center for International Education & Research, Mie University, 1577 Kurimamachiya-chou Tsu-shi, Mie, 514-8507 Japan